

## ニューヨーク研究留学

### Weill Cornell Medicine/ New York-Presbyterian Hospital

消化器外科 浦川 真哉（平成 22 年卒）

消化器外科上部消化管疾患グループの浦川真哉です。2019 年 5 月より米国ニューヨーク州ニューヨーク市にある Weill Cornell Medicine で、Jeffrey W. Milsom 教授のもと Research Fellow として研究を行っております。

研究は、主に低侵襲内視鏡治療を目指した医療機器開発を行っています。研究室には実験専用内視鏡 (5 種類) と内視鏡タワー (2 台) が完備され、そのほか様々な内視鏡器具もあり、内視鏡機器開発には理想的な環境です。週 1 回の Research conference、週 2 回のベンチャー企業との web 会議を経て、「FDA 認証の獲得する・特許を取得する」といった仕事の一旦を担っております。こちらでは日本以上にアイデアを求められ、またそのアイデアが重要視され、特許という形で守るのが当たり前の世界です。私のアイデアが特許という形で残ることは感慨深いものがあります。臨床教室に在籍しており、我々が改良したデバイス・考案したテクニックは、すぐに臨床現場で利用されるため、フィードバックが得られることも魅力です。それは同時に、我々の研究に責任を伴うことを意味し、仕事に対するやりがいにもつながります。Milsom 教授は教育にも力を入れており、我々の経験を Weill Cornell Hospital のみならず、Memorial Sloan Kettering Cancer Center (MSKCC)、New York University (NYU) hospital、Columbia といったニューヨークの名だたる病院の先生に伝えております。その中で多数の医師と触れ合うことは、こちらの医療を知る良い機会かと思われま

す。医療機器開発以外にも、さまざまな臨床研究に携わる機会を与えていただき、放射線科・病理科・基礎研究室との共同研究、手術関連の臨床研究、加えて週 1 回の臨床カンファへの参加は、米国の医療現場をみる貴重な経験です。

普段の生活においても、世界中から人が集まるニューヨークでは、文化の違いを学べる最良の環境です。日本の文化に興味を示す人達も多く、知っているはずの日本の文化に関しても新しい目線でみれるようになりました。

このような機会を与えていただいた先生方には、この場を借りて感謝申し上げたいと思います。



研究室の家族全員でのお食事会



Weill Cornell Medicine